

おばけの季節【非おばけ篇】

陽羅 義光

もしかするとおばけかもしれないのですが、体験上も体感上も、なんとなくおばけだと決めつけにくいことがあります。

病気かもしれないし、幻覚かもしれないし、単なる気の迷いかもしれないので、「おまえはおばけだ」とは云いにくい。

そう云ってしまうと、他のおばけらしいおばけに、失礼かともおもうし、何よりも読者に嘘をつくことになる。

どこからか、「そう云っていること自体が嘘じゃないか」という声が聞こえますが、そういう面倒腐そうな抗議は受け付けられないことにしています。

懐爺ならば、無理矢理にでも名前を付けて、「このおばけは、こういうおばけだ」と断定するのですが、ここに登場させるものに就いては、さすがの金ちゃんも、懐爺に報告をしておりません。

それで、懐爺にも相談なく、「非おばけ」としましたが、なかには、「なおばけ」とでもしたほうが、似つかわしいものもあるかもしれませんし、「無おばけ」とでもいいかもしれません。

そうそう、一応小見出しとして、「非おばけ」の名前を入れておきますが、これは金ちゃんの話の聞いて、私が勝手に付けるもので、しかもおばけの名前として付けるものではないのです。

無題というのもさびしいし、懐爺同様にいいかげんに付けるものですから、これは気にしないでください。

とはいえ、「非おばけ」だからといって、怖くないわけではなく、私にとっては、おばけだとはっきり判っているほうが、どちらかといえば怖くはない。

要するに、（おばけじゃないなら、こいつはいったいなんなんだ）という感覚のほうが、怖いということが多くあります。

例えば、泉鏡花や岡本綺堂の「おばけ小説」よりも、室生犀星や川端康成の「非おばけ小説」のほうが怖いということと、たぶん同じであります。

例えば、次から次へとおばけが登場する、怪奇ファンタジー映画よりも、おばけが出そうで出ない、SFホラー映画のほうが怖いということと、いささか似ています。

さて、皆さんはどうでしょうか。

まあ、前置きよりも、早く金ちゃんの話の聞きましょう。

とはいえ金ちゃんは、人をおどかしたりするのは好きではないから、おそらくあんまり怖くはないでしょうが。

そうそう【忍者篇】では登場させられなかった、無名の【にんじゃおぼけ】も出てきます。

無名は、忍者の真骨頂（しんこっちょう）ということだそうだから、【忍者篇】よりも凄い、【にんじゃおぼけ】が（いや今章の場合は「非にんじゃおぼけ」となるのでしょうか）出てきそう。

お楽しみに。

禿光山人 拝